



# 九条の会. ひがしなだ ニュース

第47号

2013年12月

事務局 中村陽一 Tel&Fax 811-4562 E-mail [youchi-nakamura@kcc.zaq.ne.jp](mailto:youchi-nakamura@kcc.zaq.ne.jp)

特定秘密保護法が成立しましたが、罰則で取り締まれば情報が守れるとは思えません。テロを防ぐために保護すべき情報はありますが、罰則に頼るシステムでは本気のテロリストは探し出してしまおうでしょう。

世界が平穏でない以上、日本がテロや戦争に巻き込まれないと考える根拠はありませんが、国民を取り締まる法律でその危険を減らせるとは思えません。

結局のところ、政府から見て秘密保護法が有効に働く分野は、『政府の保身のために国民に知らせたくない情報』ということになりそうです。

原発に全電源喪失の弱点がある場合、テロから守るために秘密にして法律で取り締まるべきか、開示して弱点を克服すべきかと考えると、答えは明らかだと私は思います。



(九条の会. ひがしなだ 呼びかけ人 山根良一)

## 巧みな臨場感あふれる描写力

「9条の会・ひがしなだ」は、恒例となった「シリーズ 私の戦争体験 (その9)」を12月1日、東灘区民センターで開催し30人が参加しました。遠くは加古川からの参加者もいました。有難うございます。

語り部は85歳の堀之内八郎さん。『戦争は悪魔だ～一生に一度の青春を奪い去る～』を語りはじめました。神戸市湊東区(現兵庫区)で

1928年(昭和3年)に生を受けた幼少期から、滋賀県立八幡商業を経て、予科練で終戦を迎えたあとのことなど臨場感あふれる語り口で切々と語りかけました。

子供の頃、公園に集められ皇太子(現天皇)誕生の喜びの歌を練習させられたという。小学校に入ると♪僕は軍人大好きよ 今に大きくなったなら 勲章下げて 剣さげて お馬に乗って ハイドウドウ♪など軍歌を沢山唄いました。いまでも唄えるから不思議。天皇制軍国主義教育の怖さです。

八幡商業3年時、授業は全て中止。勤労働員で天津市の東洋レーヨンで魚雷生産を命じられました。東レに入寮する1週間前に予科練に合格していたので、皆と別れ入隊準備のため神戸に帰宅しました。

## 活弁を聴くようだった



出征の日、湊川神社で“天皇陛下と大日本帝国のために戦うこと”を誓いました。お母さんの「八郎、行かんといて、行かんといて」の声を振り切ったの出征でした。

舞鶴の海軍海兵団を経て横須賀海軍通信学校に入学、モールス通信、射撃などの訓練を受けました。卒業後は、横須賀の久里浜通信基地に配属され、通信任務の傍ら山上で敵機の B29 やグラマンを迎撃しました。敵機のパイロットの顔が見えるぐらいの低空で機銃掃射してきます。怖いですよ。低空飛行や機銃掃射の擬音描写には紙芝居を見ている感がありました。

ヤレヤレ終わったと下山しかかった時、1機の B29 が飛来、4 キロ先の工場の屋根をフッ飛ばしました。翌朝、壊滅した工場の遺体処理に動員されました。120 名の遺体は全員が女学生でした。一人一人を担いで山の上の茶毘場まで運びました。わたしはアゴが無く左目は飛び出ている 82 番目の遺体を運びました。そのとき、遺体の胸の名札をちぎりポケットに仕舞いました。名札には「和田みどり」とありました。このちょっとした行為が、終戦後大きな感動を呼びました。

終戦後、神戸の三鈴船舶工業に勤務しました。1949 年 (S24)、東京転勤中、新聞で、8 月 15 日に「慰霊祭」があることを知りました。こんなことがきくとあると思い名札を持ってきていました。

当日、横須賀の会場でご両親にお会いし「お顔は眠っておられるようでした」と事情を説明して名札をお渡しました。名札を見たお母様は「みどり！みどり！」と叫び走り回り「みどりの匂いがする！匂いがする」、床に置きキスするなど感極まったように泣いておられました。ここの部分の語りは、声涙ともに下るようで、まさしく活弁士でした。涙する参加者もおられたのが何よりの証拠です。

もし戦争がなければ、彼女たちも青春を謳歌し、やりたい事もし、恋もしたでしょうに！ と戦争の非道、残虐性を活写した語り部でした。頭脳の明晰さは少しも衰えていないとお見受けしました。

「秘密保護法」で戦前回帰を許さない闘いが益々、重要になっていると思いました。(川上俊智)



## 来年 2 月に 8 周年記念講演・総会 沖縄国際大学・前泊博盛教授を招いて

添付のチラシに示すように、九条の会・ひがしなだは、来年 2 月 23 日 (日) 午後 1 時 30 分 (開場 1 時) から、東灘区民センターで 8 周年記念講演会・総会を開催します。講師には、沖縄国際大学教授・元琉球新報論説委員長の前泊博盛 (まえどまり・ひろもり) さんをお招きし、「本当の日本の憲法、人権、安保、民主主義の現実」などを、ジャーナリスト出身の研究者の視点から語っていただきます。

同氏は、1960 年生まれで、駒沢大学法学部卒、明治大学大学院修了の経済学修士。1984 年琉球新報社入社、1998 年から編集委員、2010 年 6 月論説委員長。この間、沖縄国際大学非常勤講師、九州大学助教授なども歴任。2004 年には、外務省機密文書のスクープと日米地位協定改定キャンペーン「検証地位協定～不平等の源流」で、第 4 回石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞、日本ジャーナリスト会議大賞、新聞労連ジャーナリズム大賞特別賞の 3 賞を受賞。

著書には、『もっと知りたい！本当の沖縄』(岩波ブックレット)、『沖縄と米軍基地』(one テーマ 21)、『日米地位協定入門』(「戦後再発見」双書 2) など多数。『本当は憲法より大切な「日米地位協定入門」』では、「なぜ米軍は、自国ではできない危険なオスプレイの訓練を、日本では行うことができるのか？なぜ日米地位協定は、日本国憲法の上位法としてあつかわれているのか？ 実は基地問題だけでなく、

原発事故やその再稼働問題、TPP参加問題など、現在の日本で起きている深刻な出来事の多くが、在日米軍のもたらす国内法の機能停止に起源をもっている」と、みごとに喝破しています。

この8周年記念講演会・総会は、「九条の会・兵庫県医師の会」の絶大な協力を得て行われるものです。友人・知人、近所の人たちにも呼び掛け、多数の参加で成功させられるよう、積極的なご協力を、呼びかけます。(田所)

## ひろがる言語空間



この秋、元町高架下のギャラリー「プラネットアース」で2013こうべビエンナー参加の「裂く・SAKU・つながるところの私を返せ」展がひらかれた。峠三吉の『原爆詩集』序詞の世界23言語訳を素材に、私とその仲間6人で手分けして書いたパフォーマンス。JR高架下モトコー2にあるこの会場には、スタンプラリーめあてのお客さんも多く、見知らぬ国のことばで書き分けられた作品に戸惑う人もいたが、私の手元で長年ねむっていた訳詩のことを皆さんに知っていた

だけの機会を得たことが嬉しくて、私は11月5日～17日の期間中ほとんど毎日会場に足を運んだ。期間中の土日に仲間の詩人・川柳作家・舞踏家たちによってくりひろげられ熱いパフォーマンスも忘れられない。

ある夏、コープこうべの『ヒロシマ・親子平和の旅』に単身参加し、たまたま買い求めたガリ版刷りの『原爆詩集』。灯籠ながしを体験し、語り部さんのお話に耳をかたむけたツアーから帰って間もなく、フランスと中国で核実験が相次いだ。それはその時の私にとって遠いところの出来事ではなく、頭上で炸裂したような衝撃だった。ふと『原爆詩集』の「序詞」をフランス語と中国語で書きたいと思った。訳してくださる方があり、2ヶ国語が6カ国語になり、一年経って訳詞は19言語に。それから18年、いま私の手許には世界の23言語の訳が集まっている。

私たちは今、福島にどんどん増えていく一方の放射能汚染水貯蔵タンクを気の遠くなるような思いで見つめ、制御できないものに依拠するおそろしさを思い知らされているが、昭和20年8月、被爆した直後のヒロシマで生きのこり、その後長くはいきられなかった峠三吉がいのちをけずるようにして書きのこした「ちちをかえせ ははをかえせ」ではじまるこの序詞は、戦後70年になろうとする今もなお、私たちに「とりかえしようのないもの」のありかをしめしてくれている。私たちには平和責任がある。

(玉井洋子)

## お寺で「12・8の集い」を開催

### 生活に悪影響の「秘密保護法」を学習

### 九条改憲の先取り許さず、撤廃めざして

日本を壊滅的な破滅へと導いたアジア・太平洋戦争の開始から72年目を迎えた12月8日、兵庫区の日蓮宗・妙法華院で、「12・8のつどい」が開催されました。「語りつごう戦争」展の会が主催。

その2日前の12月6日の深夜に、「特定秘密保護法案」が強行採決されたばかりとあって、多数の参加者は松山秀樹弁護士（神戸合同法律事務所）の講演に聞き入り、「私たちの生活にどう影響する

か」「施行を許さず、撤廃に向けてどう運動を進めるか」など、熱心な論議が行われました。

「特定秘密保護法案」と私たちの暮らし」と題する講演では、この法律のポイントとして、①秘密の範囲が広範で曖昧 ②特定秘密は国会や裁判所に提供される保証がない ③適正評価制度に合格した職員だけが取り扱う ④そのため、当該職員の家族や友人、知人などの交友関係も洗いざらい調べ上げ、民間の企業・研究機関なども対象とし、非正規職員、下請け企業なども徹底調査する ⑤秘密を漏らせば最高10年の懲役で、過失も罰する。秘密を取得しようとする行為も処罰対象で、相談する行為（共謀）、働きかける行為（教唆）なども処罰対象とされ、内部通報者を保護する規定はない—など、多くの問題点が明らかにされました。

「致命的な欠陥」としては、憲法との関係で、国民主権の民主主義社会では、政府が保有する情報は国民のものであり、情報公開が原則であるにもかかわらず、国の立場と国民の立場が逆転していること。取材・報道の自由が保証されて、はじめて国民が政府、行政機関などの権力を監視できるのに、秘密保護法で情報は権力側が独占し、情報操作を容易にし、本来は監視される対象の権力者が、逆に国民を監視する「監視社会」を作り出す、というものです。

そのため、憲法原理を根本から覆す「憲法違反の法律」とされ、「九条改憲の先取り」とされる、この稀代の悪法の施行・実施を許さず、撤廃に向けて、諦めずに運動を続けること、とりわけ若い世代との連携・連帯の重要性が強調されました。

「治安維持法の再来」「戦前・戦中の暗黒時代への逆戻り」とされる悪名高い法案の強行採決は、新たな闘いのスタートであり、九条の会運動の真骨頂、いよいよ出番となっています。（田所）



「秘密保護法」の危険性を学び、  
撤廃に向けて決意も新たに

## 「九条の会ひがしなだの皆さんと共に

安倍総理をはじめとする改憲派は、「新しい歴史教科書をつくる会」などの広報宣伝によって、全国に「民族の誇り・気分」を盛り上げていった。それが功を奏して、巨大与党を有した安倍政権はいま、恐いものなしの改憲一直線だ。在特会などの排外主義は権力の後ろ盾に支えられて増長している。

1930年代にナチスがドイツで政権を握っていった道筋もやはり、民主的な選挙で選ばれた政党の党首、国民に人気のある政治家（ヒトラー）が、巧みなスローガンと広報宣伝によって「アーリア民族至上主義＝ドイツ帝国の誇りを取り戻せ」と訴えることからだった。それが「ユダヤ人絶滅政策」に直結し、やがて第2次世界大戦に帰結していった。ドイツのキリスト者たちは戦後、ナチスを生み出した自分たちの社会の罪を悔い改めざるを得なかったのだ。

先日、戦前の治安維持法にも匹敵する「秘密保護法」が、米国追随の官僚支配のもとに成立した。愚かだった若者もやがて「民族の誇り・気分」に惑わされて、自分の首を絞めたことに気付かされるだろう。「民主的な笑顔のファシズム」に直結してゆく、その人間の罪をしっかりと見つめて、神の望む平和を求めて行こう。

日本基督教団岡本教会 牧師 赤川祥夫

## 九条の会訪問記（その23） 西須磨9条の会 創立8周年・会報100号記念で総会 内と外の運動を車の両輪に活性化

西須磨9条の会は創立8周年、ニュース発行100号記念の総会を、11月23日、一の谷クラブで開催しました。記念講演は、いま最もホットなテーマである「秘密保護法」。講師は弁護士九条の会の若手ホープ・吉田維一弁護士で、この法案がいかにか、戦前・戦中の暗黒時代へと逆戻りさせる危険なものか、平和と民主主義、国民主権を根底から覆す戦争準備の稀代の悪法か、ゆっくりと分かりやすく説いて、とても好評でした。

100号記念号は11月20日付けで発行。第1号からのバックナンバーをすべて揃えて回覧するところにも、いかにかニュースを大切に、紙面を通じて住民との結び付きを重視しているか、よく表れています。ニュースは今、30人で約600世帯に配布。対象地域の世帯数は約6000軒なので、「1割程度では、国民投票になったら、勝てない」と、100号を機に決意を新たにしています。

記念すべき第1号は、2005年9月10日付。毎月1回なら、これでは少し計算が合わないのですが、実は第3号までは「準備会ニュース」。第4号には、『9条守れ』の熱い思いあふれる結成総会の見出しが躍り、12月3日、須磨寺町自治会館で結成された時点での賛同者数189名、呼びかけ人数は34名。100号時点での賛同者数666人、お大師さん（須磨寺）参道入口での改憲反対署名数1651筆と毎号、律義に報告しています。



事務局は5名ですが、特筆すべきは4人までが女性。「女性が頑張る9条の会は強い」ことを、みごとに実証しており、唯一の男性がニュースの発行で屋台骨を支え、縁の下の力持ちとなっています。

西須磨の会は、須磨区内9つの会で構成する「9条の会須磨区連絡会」の事務局役を担い、年1回は大講演会を成功させるなど、内と外の活動が車の両輪となって、活性化していることも、特筆に値するでしょう。

「賛同の輪を広げていくために、映画会や勉強会など、多彩な取り組みを楽しく行うこと」を基本に、「これからの活動提案」では、①「集い」年4回 ②お大師さん署名（毎月20日） ③原発ゼロ集会への参加—など7項目。ニュースの裏面に連載した「戦争体験の聞き取り」を「私たちの戦争体験シリーズ」第2集としてまとめ、発行することも予定しています。

（田所明治）

